

## 口は健康のもと Vol.84 口の中の「がん」その5

### 定期健診と病診連携

最近、患者さんご自身が口の中を鏡を見て「気になる部分がある」と言って来院され、それが偶然「初期の口腔がん」だったケースを経験しました。

口の中は自分の眼で見ることができますから、むし歯や歯周病と同じように頬や舌、口蓋（口の天井）の「できもの」を発見することができるのです。

でも、口腔がんが見つかるきっかけとなるのは、歯科医院での診察や治療のときに圧倒的に多いのです。中でも「入れ歯が合わない」「歯垢や歯石を取ってもらいたい」と歯科を受診したときに、偶然発見される場合が多いようです。

定期的な歯科医院での診察は、最も簡単で確実な「口腔がん検診」なのです。歯科医院では歯や歯ぐきだけでなく、口の隅々まで診ています。

もっと詳しい診察を受けたり、検査をしてほしいという人のためには、専門の病院や大学病院を紹介するネットワークが出来上がっています。

総合病院や大学病院では「病診連携室」や「医療連携係」を設置して、患者さんを適切な診療科へ案内することや、専門医を探すお手伝いなどを行っています。この病診連携が口腔がんの早期発見と治癒率の向上に寄与しています。

毎日の生活の中で、口の中を鏡で見る習慣を身につけるとともに、定期的な歯科検診をすることが、口腔がんの早期発見に役立ちます。

少しでも気になることがありましたら、気軽にご相談ください。

奥羽大学歯学部附属病院

口腔外科 教授 高田 訓

